



名古屋発祥の楽器である大正琴の製造・販売を行なう株式会社ナルダン楽器。その美しい音色を支えるモノづくりにこだわりながら、大正琴を名古屋の文化として根付かせ、演奏の楽しさを次世代に伝えようと奮闘する、3代目社長の岩田 茂さんにお話を伺いました。

創業のきっかけは
音楽で人びとを救いたい

ナルダン楽器が創業したのは1948年。敗戦で心の拠りどころを失った国民に音楽で慰めができればと、ギター製作と大正琴の販売を始めました。その後、私の父である2代目が大正琴の製作・販売を専業としたことで、現在の事業形態になりました。

そもそも大正琴は、大正元年に名古屋の大須で生まれた楽器です。日本古来の琴に、欧州のタイプライターをヒントにした数字の音階ボタンを組み合わせたことで、楽譜が読めない初心者でも簡単に演奏できる手軽さが最大の特徴。ナルダン大正琴は天然木を一枚板で使用するなど、生の音色にこだわり続け、70年に亘って多くの方に好評をいただいています。

あくまで品質にこだわった
モノづくりへの想い

さまざまな挑戦で成長を遂げてきた当社のターニングポイントといえるのが、90年代中頃に行なっていた通販からの脱却です。当時、通販では順調に販売数を伸ばしていたものの、売れば売れば品質管理が難しいというジレンマがありました。そこで、先代にとっては苦渋の決断だったと思いますが、高級品質のモノづくりにこだわりたいという強い思いから、ユーザーはもちろん、作り手である自分自身が納得できる商品の提供を優先しました。このとき、永く愛され続ける大正琴専門メーカーとしてのブランド確立に向けて、

名古屋発祥・大正琴の普及に向けた飽くなき挑戦

- 話のポイント ▶ ナルダン大正琴の美しい音色を支える、品質にこだわったモノづくり
- ▶ 大正琴の普及を目指して、あらゆる可能性に挑戦を続ける社長の情熱

数の成長よりも質へのこだわりを選んだことが、会社の方向性を決めたとはいっても過言ではありません。

個人的には、先代の勘が頼りだった大正琴の製作を図面化し、共有できたことが印象的です。当時、大正琴の流派が激増し、各流派が推奨する大正琴を購入する方が増えていたなか、気軽に演奏する一般ユーザーの方々にも質の高い商品を提供したいという想いが強くなってきました。図面化に取り組んだことで、技術の承継はもちろん、高品質な大正琴を安定して製造できるようになり、より幅広い方にナルダン大正琴を手にとっていただける環境を整えることができたのは、大きな成果だったと感じています。

大正琴を楽しむ文化の
普及に向けた挑戦は続く

社長就任後は、各メディアの取材対応やイベント参加、大正琴教室「澄音会」の継続などを通じて、大正琴を世の中に発信しています。その根底にあるのは「たくさんの方に大正琴を楽しんでほしい」という普及への強い思い。年齢、性別や国籍を問わず、次世代へ大正琴の魅力を伝えるため、興味を持つていただけるアイデアを自ら考え、伝統工芸の新鋭作家とコラボレーションした新たなデザインの模索や、フラダンスやミュージックベルを交えたイベント企画、工房の見学会などを行なっています。

近い将来、大正琴が名古屋の音色として根づくことを目指して、商品の品質向上とともに、普及に向けた活動に邁進していきたいと思っています。



▲ デザインや弦の本数のバリエーションはもちろん、アンプについて大音量を出せるエレキタイプなど、幅広い種類を用意しています。



▲ 事務所の2階で毎週開催される大正琴教室「澄音会」。老若男女と一緒に演奏を楽しめることも大正琴の魅力のひとつです。



▲ 昨年10月に行なわれたフラダンスとのコラボレーションステージの様子。ハワイの伝統文化との相性は抜群で、大正琴の可能性が広がりました。



今月の表紙説明

長い時間を過ごしている工房での一枚。素材や木目、パーツなど、それぞれに個性があるため、一つひとつ丁寧にすべて手作業で組付けていきます。2名の職人で、1ヶ月に200~250台の大正琴をつくっています。

Company Data

【会社概要】

- ▶ 創業 1948年
- ▶ 所在地 名古屋市西区幡下1-5-12
- ▶ TEL 052-571-8882
- ▶ URL <http://www.nardana.co.jp>
- ▶ 事業内容 大正琴、大正琴関連商品の製造・販売